

馬場ひでゆきの活動日誌 No.3

昨年8月3日から4日、村上市、関川村、胎内市、阿賀町など県北地域を豪雨が襲い、各地で土砂災害や浸水など大きな被害をもたらしました。それから一年たった今年の8月19日、20日、災害被害者支援と災害対策改善を求める新潟県連絡会(新潟県災対連)の仲間と被災地の現状を視察してきました。

県北豪雨一年、米坂線は手つかずのまま



雑草に覆われ荒廃した鉄路

8月19日は、米坂線(山形県今泉と新潟県坂町(村上市)間の約67・7キロメートルを結ぶローカル線)の坂町駅から越後下関駅までの被災箇所を視察しました。

線路の周辺の災害現場は、農地復旧や治山工事が進んでいました。しかし、線路の復旧は全く手つかずのままになっています。写真で明らかなおと、踏切が土砂に埋もれています。かつてここに線路があったのだとわからないほどのその周辺は荒れ果てていました。というのも、復旧工事に多額の費用



(JRの試算で86億円)がかかり、JR、国、県、地元自治体との協議がまとまっていないからです。

JR米坂線 復旧急いで

ようやく、9月8日に沿線自治体と「米坂線復旧検討会議」が設けられ、JRが「復旧を検討する」と初めて明言しました。

国の災害復旧補助制度を適用した場合、JRが2分の1、国と地方自治体が4分の1ずつ費用を分担します。86億円のうち新潟県の区間は31億円、そのうすると、新潟分の負担は約7億7500万円となります。

しかし、早期復旧のためには国の支援が不可欠です。鉄道は公共のインフラですから、国が主導して計画を前に進めて行くべきではないかと思えます。

「水の腐った匂い」がする

翌日20日は、土石流や流木で6棟が全壊し、全36世帯への避難指示が継続されていて仮設住宅での生活が続く小岩内集落を訪問し、松本佐一前区長から話を聞きました。

この集落では短時間の豪雨で土石流が発生し、大量の流木が家屋6棟を全壊させました。

ただ、このような大災害にも関わらず、負傷者1名だけで死亡者はゼロ。3日の午後9時頃から、集落の役員が早めの避難誘導を決断し、消防団員らと共に一軒ずつ住宅を回り避難を呼び

かけたことが、犠牲者を出さなかった要因でした。

早期の避難指示を決断したきっかけについて、松本さんは次のように話しました。

「昭和42年の羽越水害の土石流被害のときと同じような「水の腐った匂い」がした、それで今回も土石流が発生する恐れがあると直感した」

羽越水害は昭和42年8月に新潟県下越地方と山形県の置賜地方を襲った集中豪雨による水害で、104名の死者を出しました。

松本さんは当時8歳、羽越水害のと



きのことを覚えていたのです。

過去の災害の記憶、経験や教訓を次の世代に生かすことの重要性に気づきました。

この時の懇談会では、小岩内集落の皆さんから具体的な要望をたくさんお聞きしました。これらの要望をしっかりと行政に届けていきます。

発行責任者：馬場ひでゆき事務所

住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号

ダイアパレス高田式番館2階

電話 025-546-7110

ファックス 025-546-7666